



スキマタイムズ



もっとお互いを理解するための場や時間を



日本自立生活センター自立支援事業所 2021年5月27日発行 第122号

5月末、当事業所の理事会・総会にて2020年度の事業報告並びに活動報告が行われております。

当事業所は、日本自立生活センターという障害当事者活動を基にした事業所です。その中で「自立支援研究開発事業」と称し、障害当事者と共に様々な活動を行っています。ここにその活動を少しご紹介いたします。

なお、矢吹文敏前理事長逝去後、理事長は小泉浩子がさせていただきます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

地域移行支援

コロナ禍にも関わらず二人の方が筋ジス病棟から退院し地域で自立生活をスタート。

1月からはDPIの「脱施設プロジェクト」に参加。施設入所者や病院入院患者にアプローチし地域移行を働きかけ、行政や施設・病院関係者などの意識改善をうながす。

住まいの場づくり

住宅管理課との話し合い、交渉や個別相談、動画の作成。

すべての人に安全な駅ホームの設置を進める会

ホーム柵署名活動、地下鉄職員研修、交通局との話し合い。

バリアフリー・街づくり運動

京都市公園や河川敷の柵撤去を求め、各窓口と話し合いや交渉。

パーフェクトバスを走らせる会

京都市交通局との研修実施、会結成30周年記録集を作成中。

会員訪問事業

金銭管理や生活上の困りごと、コロナ禍での生活の変化について本体メンバーが聞き取り。

啓発活動

大学、ヘルパー養成研修などへの講師派遣。

震災救援

被災地障害者を誰一人取り残さないという思いで活動。コロナ禍により救援該当募金活動は自粛中。

ALS 部門

重度訪問介護従事者養成講座の医療的ケアの講義を開催。

車いすと仲間の会 研修キャンプ

開催場所、実行委員メンバーや参加者のマンパワー不足の問題などで今後の開催は未定。

京都福祉まつり

コロナ感染拡大防止のため、初のウェブ開催。
全体テーマは「まち・暮らし・あなた」
アート作品の公募や市バスの実車を使用し差別事例や好事例を撮影した「市バス劇」、ライブペイント、座談会などを実施。

講師派遣

ノートルダム女学院はコロナ禍で中止。
京都教育大学は内容を一部変更し開催。

「国際障害者年」連続シンポジウム

障害者にとって「働くこと」や「仕事」について考える～「働く」ときの介護保障や合理的配慮と、「生産性」優位社会について～と題して開催。
コロナ禍により初のウェブ開催。注目度の高いテーマだったため 152 名の方が参加。

京都市障害者施策推進審議会

京都市のプランの「中間見直し」が審議された。
地域移行、施設入所者数削減の推進を強く要望。



障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会

例年行われている定例会議や京都デザインフォーラムはコロナ感染拡大により実施されず。権利擁護部会、インクルーシブ教育部会、女性部会などは活動。

京都市ユニバーサルデザイン審議会

利用しやすい施設づくり部会に所属。コロナ以前は駅の新設やバリアフリーの工事前に当該駅の事業者から説明を受けていたが、2019年から部会は開催されず。

生活保護改悪に反対する人々の会

「生存権を求める京都デモ」を実施。
継続的な街頭宣伝・募金活動。京都市との交渉。
京都の「新・生存権裁判」は5月25日に結審。勝訴判決を望む。

難病の「難」って「何」のこと？ に参加して

野瀬 時貞

はじめましての方もおられると思うので自己紹介からさせていただきます。昨年9月よりJCILで地域移行支援やインクルーシブ教育の取り組みをしている先天性脊髄損傷、脳性麻痺当事者の野瀬時貞です。長年暮らした宇多野病院から2019年に地域移行し、自立生活を始めたばかりで、公私ともに勉強の日々です。

今回は4月に行われたスキマ勉強会の感想をお話しさせていただきます。線維筋痛症の当事者である尾下葉子さんを講師にお迎えし、「難病の「難」って「何」のこと？」という講義をして頂きました。

難病と障害の違いや使える制度のお話をお聞きして印象に残ったことは、見た目は大阪のおばちゃんだから理解を得るのが難しいというような事を言われた時です。確かに僕達には前情報もあり、この勉強会以前から繋がりががあるので、何も尾下さんの事を知らない方と比べると、ある程度の「配慮」は出来ますが、何も知らなかったら本当に気さくな方という印象しか受けないと思います。尾下さんは長時間座っているとしんどいとか、うつ伏せなら作業可能とか、お仕事も限られた時間なら可能とかその様な「配慮」が必要な方です。勉強会以降も何度か本体でお会いして、席が離れていたのと言えなかったのですが、本来なら毛布をお貸しするので床に座られますか？とか横になられますか？とお聞きしたかったです…

さて、勉強会の話に戻りますが、難病の「難」は何なのか？を会場のみんで出しました。残念ながら僕は意見を出せなかったのですが、「どう接したら良いか分からない」とか「病気に触れて良いか分からない」という意見が出ていました。確かに見た目だけでは中々判断がつかないですね…僕のように車いすを使っていたら一目瞭然なのですが…

これはこの勉強会で初めて知ったんですが、そんな時にはヘルプカード！ヘルプカードはヘルプマークと同じく、白い十字の下にハートマークがデザインされています。その裏には名前やかかりつけ医やこんな時はこんな事をして欲しいとか書ける様になっています。これは僕達が持っていて役に立つのではと思いました。

今まではエレベーターなどで見た目元気そうな方を見ると階段で行けよ…とか思ってしまっていたんですが、この勉強会を聞いて改めて僕らには見えない事情があるのかも知れないと思える様になりました。本当に勉強になりました。

職員紹介 34

職員自己紹介

- ①なまえ
- ② JCIL との関わりはいつから？
- ③ きっかけは？
- ④ どんな仕事をしていますか？
- ⑤ 大切にしていること・これからしたいこと

①矢谷 博文 (やたに ひろふみ)

②2018年から

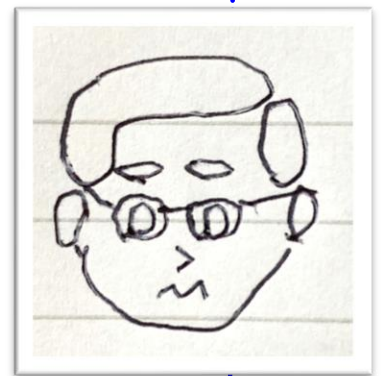
③JCILでヘルパーをしている甥の紹介で。

④JCILでヘルパーをしています。

⑤大切にしていること：基本
これからしたいこと：温泉巡り

この仕事に就いて3~4年しか経っていませんが、多くの出会いと共に悲しい別れも経験させていただきました。

これからも人生を謳歌するお手伝いをさせていただきたいと思っています。今後もよろしくお願ひいたします。



※※※実績記録票の記入についてのお知らせとお願いについて※※※

先月末、皆様に郵送にてお届けした「実績記録票の記録方法」について、このたび解説動画を作成しました。2分間の短い動画です。わかりやすく動画になっていますので、ご確認ください

<https://youtu.be/4rKBFNJz2jE>



JCIL&Works Art Festa 2021

今年の「京都(きょうと)」

今年もワークス共同作業所は作品展を行います

テーマは「京都(きょうと)」英: Kyoto、貴方の「きょうと」のイメージを作品にしてください。「古都」「私たちが暮らす京都」、「観光地としての京都」など、色々な顔を持った京都、障害のある人にとってもたくさんの顔があると思います。あなたの「きょうと」をお待ちしています。

新型コロナウイルスの脅威の中、終息の目途は立っていません。会場での展示を出来るだけ行う方向で準備しています。状況次第で会場展示は行わずにホームページのみで行う可能性もあります。ご了承ください。エントリーはメール・FAXで出品を受け付けます。

内 容：障害者及びその友人、知人等の芸術文化工芸作品

募集内容：絵画、陶芸、写真、書、彫刻、その他工芸作品

応募資格：障害のある個人、又はグループとその関係者

応募方法：申込用紙にご記入のうえメール又はFAXでワークス共同作業所まで

募集期間：6月1日～7月15日

会場展示：8月21日(土)～9月6日(月)

場 所：京都市地域・多文化交流ネットワークサロン(会場展示)

Web展示：9月18日～10月30日

作品 募集 中



今回はコロナ禍で閉じられた部屋を使う事が出来ません。京都市地域・多文化交流ネットワークサロンのご厚意でオープンスペース(廊下等)での展示とさせていただきます。

つきましては直接手を触れないように告知はさせていただきますが終始係がいる状況は作りにくいのです。万一(汚れ、破損等)の場合はご了承くださいませようをお願いいたします。

今回は写真をメール添付でも受け付けます。その際はワークスにてA3サイズでプリントアウトして展示します。

主 催、特定非営利活動法人日本自立生活センターワークス共同作業所

協 力、京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

問合せ：TEL:075-682-3201、FAX:075-682-3330 E-mail:info@kyoto-j-works.com